

# 保育者・小学校教員養成課程における ピアノ学習の現状と課題 (1) —動機づけの視点から—

## Current situation and issues in piano learning of the training courses for elementary school teachers and early childhood education and care teachers (1)

— The point of view of motivation —

戸 江 真 以・赤 間 健 一

Mai Toe・Kenichi Akama

### 1. 研究の背景と目的

保育者・小学校教員養成課程を持つ大学では、免許資格に関わる科目にピアノの演奏技術を身につけることを目的とした科目が設定されている。養成校によって、その授業形態は異なり、一斉授業やグループレッスン、個人レッスンなどがあり、なかでも個人レッスンの形態をとるところが多い。したがって、個人レッスンを前提とした授業に関する研究は数多く存在する。しかし、一斉に授業を行っている大学も少なからず存在し、希望の免許資格やピアノ経験などが多様な学生が混在する一斉授業におけるピアノ学習の現状と課題を検討する作業が求められる。

まず、養成校におけるピアノ学習の課題として、ピアノを弾けるようになるまでに、克服しなければならないいくつかの困難が存在し、特に大学入学までにピアノ経験のない、または浅い学生にとって、それらの困難が大きな負担となることがあげられる。養成校でのピアノ学習、特に弾き歌いの技能において、学生が難しいと感じる内容について、「同時並行作業」<sup>1)</sup>、「音楽的技術」、「課題の習熟」、「メンタルが及ぼす影響」、「保育者としての演奏技術」(萩原 2019, p.3) の5つが指摘されている。ピアノを弾くためには、複雑な作業を同時に行うことが求められるだけでなく、レッスンやテストで人前で弾くことによるメンタルの問題も乗

り越えなくてはならない。一斉授業においては、「人に聴かれる」ことを個人レッスン以上に意識していると考えられる。

また、ピアノ学習全般においていえることだが、授業やレッスンの時間だけで上記の困難を克服することは、ほとんどの場合不可能であり、個人での練習が不可欠である。本稿では、学生がどのように動機づけられ、ピアノ学習に取り組んでいるのかに着目する。

ピアノ学習の動機づけに関する先行研究において、ピアノ学習支援のあり方や、その特性について述べられている。別府 (2016) は、動機づけと感情との関連を調査した結果から、「学習経験の浅い学習者に対しては、特に、個人の到達目標に対する到達度を重視し、わずかな技術の伸びも見逃さずに褒めることを励行し、自律性の高い動機づけを促進する契機をつくる」ことや「学習期間の浅い学習者に対して、自主学習の際に楽しさを感じられるような課題、且つ保育現場での活用に結びつくような課題を指導者が適切に設定することが、自律的な動機づけを促進するために有効であるといえるだろう」(別府 2016, pp.296-297) と述べている。また、個人レッスンの授業形態をとる養成校で調査を行っており、経験に応じた課題を提供されていることから、「個人レッスンのような授業形態をとる場合、学習者はそれぞれの現状をふまえた課題に向き合わねばならず、これまでの学習経験によって技能を身

につけているということが、学習に対する自律性の程度に関連するとはいえない」(同前書, p.296) ことが明らかになっている。

別府・大野内 (2018) は、養成校におけるピアノ学習の課題を解決するためには、動機づけの視点から「自身が演奏する音楽が保育・教育において子どもに直接働きかける重要なツールとなることを、様々な方法で工夫して教授する等して実践的利用価値に積極的に介入することが効果的」(別府・大野内 2018, p.664) としている。

吉村・芝崎 (2015) は、保育者養成におけるピアノ指導を自己効力感に着目して論じている。質問紙調査の結果、自己効力感は入学前のピアノ経験が影響すること、ピアノ未経験者は1年間ピアノを学習してもその後自己効力感が低いままであることを明らかにしている(吉村・芝崎 2015, p.59)。さらに吉村・芝崎 (2016) では、「目標シート」の活用前と後とにおける自己効力感の差異を調査し、ピアノ学習に消極的な学生が「目標シートを活用することで、学習への積極的姿勢が形成されたことを意味している」(吉村・芝崎 2016, p.73) とし、このことから「多くの学生は自分自身で自己課題を見つけることができていない」(同前書) ことを見出している。なお、吉村・芝崎 (2015, 2016) で調査対象となったのは、10名程度のグループレッスンの形態をとる授業であると考えられる(同前書)。自己効力感に関するこの研究結果は、本研究にも示唆を与えるものである。

本研究では、これらの先行研究をふまえたうえで、一斉授業の形態をとるピアノ学習環境において学習者がどのように動機づけられピアノ学習に取り組んでいるのかを調査し、養成校におけるピアノ学習の現状と課題を明らかにすることを試みようとするものである。

## 2. 研究の方法

ピアノの技術を伴う演習授業を受講する女子大学生108名(平均年齢19.51(SD=0.51)歳)が本調査に参加した。

藤田 (2010a) 及び藤田 (2010b) の自律性支援の認知、心理的欲求、体育授業用動機づけ尺度をもとにピアノ学習に合うように項目を作成し、自律性支援の認知、

心理的欲求、動機づけを測定する尺度を使用した。自律性支援の認知は教員からの支援と学生からの支援、各5項目の計10項目、心理的尺度は、自律性欲求、有能感への欲求、関係性欲求(教員)、関係性欲求(学生)、各4項目の計16項目、動機づけ尺度は、内発的動機づけ5項目、統合的調整、同一視的調整、取入れ的調整、外的調整各4項目、非動機づけ5項目の計26項目を使用した。1.全く当てはまらない、から5.非常に当てはまるまでの5件法で回答を求めた。ピアノ学習行動については、読譜、指使い、リズム、調号・臨時記号の理解等について12項目を作成し、1.全く当てはまらない、から5.非常に当てはまるまでの5件法で回答を求めた。その他、年齢、性別、大学入学前のピアノ経験の有無、経験年数、大学入学後のピアノに関する授業の受講状況、取得を希望する免許・資格の種類、取り組んだことがある曲集について回答を求めた。冊子に綴じた質問紙を配布し、各自のペースで回答を求めた。

本研究は福岡女学院大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した(審査番号19022)。調査への参加、途中辞退等の自由、プライバシーの保護について、データの管理方法、成果発表等について書面・口頭での説明の後、同意を得たデータのみを使用した。

## 3. 結果

### (1) 尺度構成

自律性支援、心理的欲求、動機づけについては、因子構造を確認するために原尺度と同様の因子構造を仮定し確認的因子分析を行った。その結果、それぞれの適合度は、自律性支援尺度では、CFI=.959,  $\chi^2/df=1.758$ , RMSEA=.085, 基本的欲求尺度では、CFI=.931,  $\chi^2/df=1.871$ , RMSEA=.091, 動機づけ尺度ではCFI=.910,  $\chi^2/df=1.601$ , RMSEA=.076といずれも許容できる範囲であった。各下位尺度の $\alpha$ 係数も.77から.91の範囲であり、十分な内的整合性が確認された。

ピアノ学習行動尺度については、本研究で作成したため、探索的因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行った。固有値の減衰状況や解釈可能性を考慮し、3因子解を採用した。最終的に得られた因子パターンを表1に示した。第1因子は、指使いに関して、教え

表1 ピアノ学習行動の因子分析結果

|                                    | F1         | F2         | F3         | $h^2$ |
|------------------------------------|------------|------------|------------|-------|
| 5 弾きやすい指使いは、人それぞれであるので、自分で考えた方がよい。 | <b>.88</b> | -.11       | .01        | .74   |
| 11 指使いを自分で考えるのは面倒だ。*               | <b>.71</b> | .16        | .20        | .45   |
| 2 指使いは、教員から指定してくれた方がよい。*           | <b>.67</b> | -.05       | -.20       | .60   |
| 9 初めて取り組む曲は、必ず調号を確認している。           | -.07       | <b>.86</b> | .16        | .64   |
| 6 初めて弾く曲に取り組むとき、拍子を確認している。         | .09        | <b>.59</b> | .04        | .36   |
| 12 楽譜を見て自分でリズムを取ることができる。           | .18        | <b>.56</b> | -.24       | .61   |
| 10 調号を見て、何長調かすぐに分かる。               | -.08       | <b>.50</b> | -.20       | .35   |
| 8 #やbを見ると、難しい曲に感じる。                | .03        | .11        | <b>.77</b> | .50   |
| 7 楽譜に「ドレミ」を書き込んでおくと安心する。           | -.07       | -.09       | <b>.62</b> | .50   |
| 1 いつも鍵盤を見ながら演奏している。                | -.01       | .06        | <b>.50</b> | .23   |
| 3 初めて取り組む曲は聴いてからでないと、練習する気が起こらない。  | .17        | -.16       | <b>.48</b> | .25   |
|                                    | F1         | -          | .23        | -.51  |
|                                    | F2         | -          | -          | -.44  |
|                                    | F3         | -          | -          | -     |

\*は逆転項目

表2 全変数の記述統計量

|           | 平均値  | 標準偏差 | $\alpha$ |
|-----------|------|------|----------|
| 自律性支援(教員) | 3.52 | 0.82 | .89      |
| 自律性支援(学生) | 3.98 | 0.70 | .89      |
| 関係性欲求(教員) | 3.28 | 0.92 | .91      |
| 関係性欲求(学生) | 4.19 | 0.72 | .91      |
| 有能感への欲求   | 2.68 | 1.00 | .86      |
| 自律性欲求     | 3.04 | 0.94 | .85      |
| 外的調整      | 1.76 | 0.76 | .77      |
| 内発的動機づけ   | 3.03 | 0.98 | .89      |
| 非動機づけ     | 2.32 | 0.98 | .90      |
| 同一視的調整    | 3.46 | 0.91 | .79      |
| 取入的調整     | 2.52 | 1.06 | .78      |
| 統合的調整     | 2.82 | 0.86 | .86      |
| 指使い       | 3.17 | 1.08 | .78      |
| 読譜        | 2.80 | 1.00 | .75      |
| 不得意       | 3.55 | 0.93 | .67      |

られるよりも自分で考えた方が良いという内容の項目の負荷が高く、「指使い」と解釈した。第2因子は、調号や拍子を含めた楽譜から情報を理解することに関する内容の項目の負荷が高く、「読譜」と解釈した。第3因子は、苦手意識や難しさを表す内容の項目の負荷が高く、「不得意」と解釈した。負荷量が4以上の項目について、 $\alpha$ 係数を算出したところ、いずれも.6以上であり、内的整合性も確認されたため、項目への評定値の平均値を尺度得点として算出した。全変数の平均値、標準偏差、各尺度の $\alpha$ 係数を表2に、全変数間の相関係数を表3に示した。

## (2) 入学前経験の有無

入学前にピアノ学習経験があった経験群（62名）と未経験群（42名）に分類した。群間で動機づけやピアノ学習に差があるかどうかを検討するために対応のないt検定を行った。また群別に変数間の相関係数を算出した。各群の変数の平均値、標準偏差、t検定結果を表4に、相関係数を表5に示した。

群間で有意差が見られた項目のうち、経験群が未経験群よりも有意に高かった項目は、自律性支援（教員）、関係性欲求（教員）、自律性欲求、有能感への欲求、内発的動機づけ、同一視的調整、指使い、読譜であった。未経験群が経験群よりも有意に高かった項目は、非動機づけと不得意であった。

相関係数においても群間で異なる傾向が見られた。心理的欲求や動機づけ内の相関には大きな違いは見られなかったが、ピアノ学習との相関では、指使いと読譜に対して、経験群では有能感への欲求と内発的動機づけが正の相関を、不得意に対しては負の相関を、非動機づけが指使いと読譜に負の、不得意に正の相関を示した。これに対し、未経験群では、内発的動機づけや統合的調整、同一視的調整といった自律性の高い動機づけが指使いに負の相関を示し、同一視的調整が読譜に正の相関を示したのみで、動機づけとピアノ学習間にはほとんど有意な相関は見られなかった。

変数間の相関関係が異なる可能性を考慮し、群別に、

表3 変数間の相関係数

|             | 1        | 2       | 3       | 4        | 5        | 6        | 7       | 8        | 9        | 10      | 11     | 12     | 13       | 14       | 15 |
|-------------|----------|---------|---------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|--------|--------|----------|----------|----|
| 1 自律性支援(教員) | -        |         |         |          |          |          |         |          |          |         |        |        |          |          |    |
| 2 自律性支援(学生) | .36 ***  | -       |         |          |          |          |         |          |          |         |        |        |          |          |    |
| 3 関係性欲求(教員) | .81 ***  | .36 *** | -       |          |          |          |         |          |          |         |        |        |          |          |    |
| 4 関係性欲求(学生) | .10      | .72 *** | .18     | -        |          |          |         |          |          |         |        |        |          |          |    |
| 5 有能感への欲求   | .47 ***  | .34 *** | .18     | .51 ***  | -        |          |         |          |          |         |        |        |          |          |    |
| 6 自律性欲求     | .67 ***  | .39 *** | .20 *   | .72 ***  | .59 ***  | -        |         |          |          |         |        |        |          |          |    |
| 7 外的調整      | -.14     | -.28 ** | -.29 ** | -.18     | -.24 *   | -.18     | -       |          |          |         |        |        |          |          |    |
| 8 内発的動機づけ   | .45 ***  | .21 *   | .16     | .49 ***  | .69 ***  | .52 ***  | -.07    | -        |          |         |        |        |          |          |    |
| 9 非動機づけ     | -.45 *** | -.30 ** | -.24 *  | -.52 *** | -.74 *** | -.63 *** | .28 **  | -.75 *** | -        |         |        |        |          |          |    |
| 10 同一視的調整   | .31 **   | .14     | .09     | .35 ***  | .48 ***  | .45 ***  | .14     | .67 ***  | -.59 *** | -       |        |        |          |          |    |
| 11 取入れ的調整   | -.13     | -.30 ** | -.23 *  | -.14     | -.14     | -.11     | .67 *** | .01      | .15      | .27 **  | -      |        |          |          |    |
| 12 統合的調整    | .41 ***  | .09     | .04     | .37 ***  | .40 ***  | .50 ***  | .20     | .59 ***  | -.40 *** | .62 *** | .27 ** | -      |          |          |    |
| 13 指使い(F1)  | .07      | .14     | .05     | .06      | .40 ***  | -.02     | -.22 *  | .20 *    | -.37 *** | .08     | -.23 * | -.17   | -        |          |    |
| 14 読譜(F2)   | .16      | -.05    | .06     | .13      | .49 ***  | .25 **   | -.04    | .39 ***  | -.39 *** | .31 **  | -.01   | .30 ** | .24      | -        |    |
| 15 不得意(F3)  | -.13     | -.08    | -.10    | -.22     | -.59 *** | -.19     | .19 *   | -.38 *** | .43 ***  | -.19    | .18    | -.18   | -.36 *** | -.40 *** | -  |

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

表4 各群の変数の平均値, 標準偏差, およびt検定結果

|           | 未経験群(n=42) |      | 経験群(n=62) |      | t (102)  |
|-----------|------------|------|-----------|------|----------|
|           | 平均値        | 標準偏差 | 平均値       | 標準偏差 |          |
| 自律性支援(教員) | 3.25       | 0.90 | 3.68      | 0.72 | 2.69 **  |
| 自律性支援(学生) | 3.98       | 0.66 | 3.97      | 0.74 | 0.05     |
| 関係性欲求(教員) | 3.02       | 0.92 | 3.45      | 0.90 | 2.37 *   |
| 関係性欲求(学生) | 4.25       | 0.62 | 4.14      | 0.78 | 0.79     |
| 自律性欲求     | 2.74       | 0.94 | 3.23      | 0.92 | 2.60 *   |
| 有能感への欲求   | 2.02       | 0.57 | 3.13      | 0.99 | 6.53 *** |
| 内発的動機づけ   | 2.53       | 0.85 | 3.35      | 0.93 | 4.56 *** |
| 統合的調整     | 2.63       | 0.89 | 2.96      | 0.83 | 1.94     |
| 同一視的調整    | 3.07       | 0.89 | 3.71      | 0.85 | 3.71 *** |
| 取入れ的調整    | 2.72       | 0.87 | 2.37      | 1.15 | 1.69     |
| 外的調整      | 1.83       | 0.60 | 1.71      | 0.85 | 0.78     |
| 非動機づけ     | 2.89       | 0.92 | 1.92      | 0.81 | 5.64 *** |
| 指使い       | 2.67       | 0.98 | 3.53      | 1.02 | 4.25 *** |
| 読譜        | 2.30       | 0.85 | 3.15      | 0.97 | 4.58 *** |
| 不得意       | 3.92       | 0.75 | 3.29      | 0.97 | 3.56 *** |

自律性支援→心理的欲求→動機づけ→ピアノ学習という因果関係について検討した。心理的欲求を従属変数とし、自律性支援を説明変数に、動機づけを従属変数とし、自律性支援と心理的欲求を説明変数に、最後に、ピアノ学習を従属変数に、自律性支援、心理的欲求、

動機づけを説明変数にステップワイズ法による重回帰分析を行い、未経験群の結果を図1に、経験群の結果を図2に示した。

ピアノ学習への影響が見られたのは、未経験群においては、自律性支援(教員)が自律性欲求に正の影響を、そして自律性欲求が、統合的調整に正の影響を及ぼし、統合的調整が指使いに負の影響を示し、また、同一視的調整が自律性欲求から正の、自律性支援(教員)から負の影響を受け、読譜に正の影響を示すという関係であった。自律性支援(学生)は、自律性欲求ではなく、関係性欲求(学生)に正の影響を示したのみであった。有能感への欲求は動機づけにもピアノ学習にも影響していなかった。

経験群においては、自律性支援(教員)と自律性支援(学生)はいずれも心理的欲求に影響していた。心理的欲求は、有能感への欲求のみ、内発的動機づけと同一視的調整が正の、非動機づけに負の影響を示したが、他の心理的欲求は動機づけに影響していなかった。ピアノ学習への影響では、指使いに対して非動機づけが負の、不得意に対して取入れ的調整が弱い正の影響を示した以外は有意な影響は見られなかった。ピアノ学習に対しては、心理的欲求から直接の影響が見られた。指使いに対しては自律性欲求が、読譜に対しては有能感への欲求と関係性欲求(学生)が、不得意に対

表5 各群の変数間の相関係数

|             | 1      | 2      | 3      | 4      | 5       | 6      | 7       | 8       | 9       | 10     | 11     | 12      | 13      | 14     | 15      |
|-------------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|--------|---------|
| 1 自律性支援(教員) | -      | .53*** | .76*** | .23    | .70***  | .50*** | .51***  | .46***  | .41**   | -.13   | -.17   | -.41**  | .14     | .18    | -.11    |
| 2 自律性支援(学生) | .18    | -      | .52*** | .72*** | .54***  | .46*** | .34**   | .13     | .24     | -.38** | -.36** | -.46*** | .16     | .03    | -.26*   |
| 3 関係性欲求(教員) | -.02   | .71*** | -      | .31*   | .72***  | .52*** | .50***  | .28*    | .35**   | -.15   | -.21   | -.47*** | .15     | .13    | -.16    |
| 4 関係性欲求(学生) | .85*** | .11    | -.01   | -      | .31*    | .32*   | .31*    | .09     | .12     | -.28*  | -.30*  | -.39**  | .11     | .16    | -.27*   |
| 5 自律性欲求     | .60*** | .16    | .07    | .68*** | -       | .57*** | .39**   | .39**   | .23     | -.22   | -.28*  | -.51*** | .01     | .18    | -.23    |
| 6 有能感への欲求   | .30    | .28    | .09    | .41**  | .60***  | -      | .68***  | .38**   | .41**   | -.05   | -.24   | -.77*** | .39**   | .53*** | -.68*** |
| 7 内発的動機づけ   | .25    | .03    | .01    | .37*   | .58***  | .47**  | -       | .52***  | .59***  | .01    | -.15   | -.72*** | .30*    | .35**  | -.37**  |
| 8 統合的調整     | .30    | .04    | .01    | .42**  | .60***  | .38*   | .67***  | -       | .48***  | .25    | .14    | -.22    | -.13    | .30*   | -.07    |
| 9 同一視的調整    | .06    | -.01   | .11    | .21    | .62***  | .32*   | .67***  | .77***  | -       | .35    | .19    | -.46*** | .17     | .13    | -.10    |
| 10 取入れの調整   | -.03   | -.15   | -.15   | -.02   | .21     | -.06   | .25     | .44**   | .37*    | -      | .69*** | .16     | -.12    | .05    | .18     |
| 11 外的調整     | -.07   | -.08   | -.25   | -.07   | .06     | -.15   | .23     | .39*    | .22     | .61*** | -      | .39**   | -.22    | -.10   | .24     |
| 12 非動機づけ    | -.39*  | -.18   | -.20   | -.49** | -.73*** | -.48** | -.66*** | -.53*** | -.59*** | -.07   | .00    | -       | -.45*** | -.33** | .55***  |
| 13 指使い(F1)  | -.23   | .14    | .04    | -.32*  | -.34*   | -.16   | -.36*   | -.45**  | -.40**  | -.30   | -.16   | .09     | -       | .18    | -.44*** |
| 14 読譜(F2)   | -.08   | -.20   | .01    | -.10   | .18     | -.11   | .11     | .17     | .33*    | .10    | .16    | -.15    | -.05    | -      | -.39**  |
| 15 不得意(F3)  | .04    | .30    | .19    | -.16   | .09     | -.02   | -.11    | -.23    | -.09    | .01    | -.02   | -.04    | .10     | -.14   | -       |

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

注)上三角が経験群、下三角が未経験群

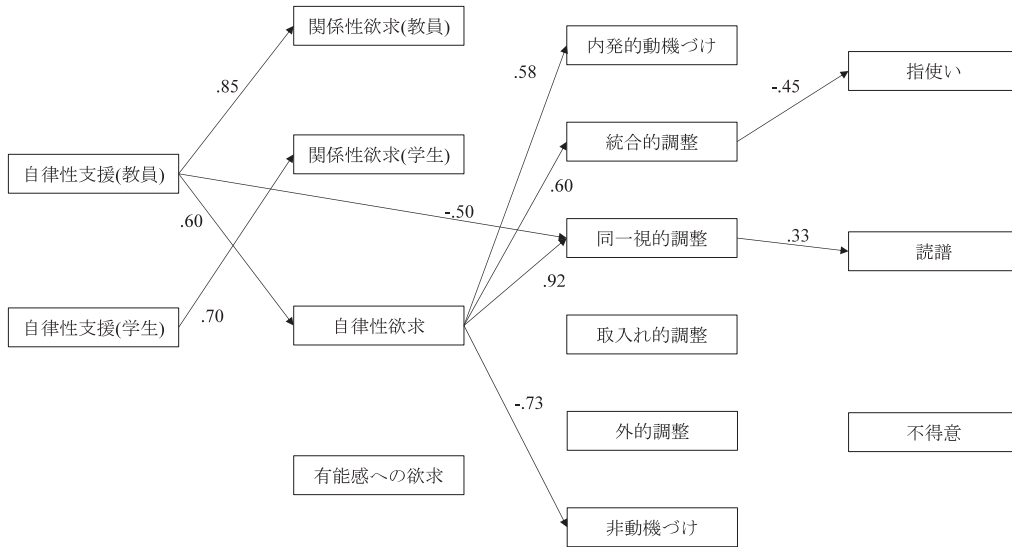


図1 未経験群の自律性支援、心理的欲求、動機づけ、ピアノ学習のパスダイアグラム

注) 図中の数値はすべて5%水準で有意であった。

しても有能感への欲求が影響していた。経験群においては動機づけよりも有能感への欲求がピアノ学習行動に影響していた。経験群において、影響が大きかったものとしては指使いに対する非動機づけからの負の影響、読譜に対しては関係性欲求（学生）からの正の影響、不得意に対しては有能感からの負の影響であった。

#### 4. 考察

本研究は、保育者・小学校教員養成課程におけるピアノ学習について、動機づけの視点から調査を行い、ピアノ技術を習得することを目的とした一斉授業における現状と課題を明らかにするものである。

今回の調査において、ネガティブなものは未経験群が高く、多くの先行研究で明らかになっているように、

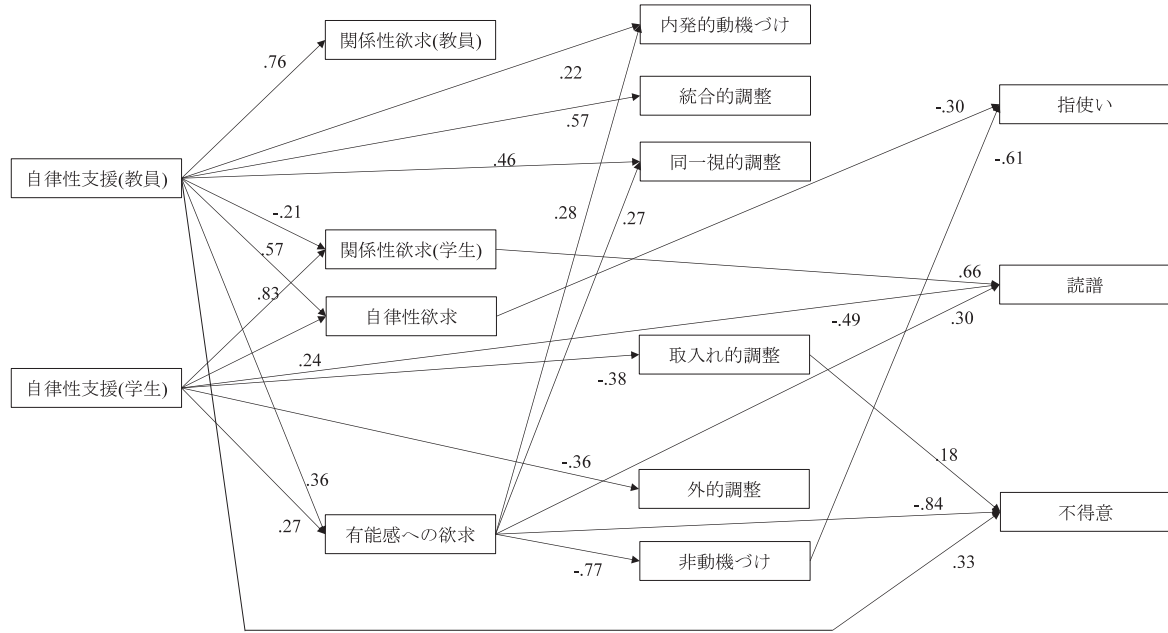


図2 経験群の自律性支援，心理的欲求，動機づけ，ピアノ学習のパスダイアグラム

注) 図中の数値はすべて5%水準で有意であった

大学入学前までのピアノ経験が動機づけに影響することが確認できた。なお、対象校では、経験群が未経験群よりも多かった。

一斉授業において着目したいのが学生間の自律性支援と関係性であるが、今回の調査では、未経験群において、学生からの自律性支援は、自律性ではなく、学生への関係性欲求を満たしていた。この要因として考えられることの一つは、学生が他の学生を自身の自律性を支援する者として認識しておらず、関わりそのもののみを認識しているということである。

一方、経験群においては、関係性欲求（学生）が読譜に正の影響を示しており、授業における関係性欲求が満たされることで、学習行動が促進されることが明らかとなった。

本調査より、未経験群、経験群とも授業内における学生間の関係性欲求を重要視しているという結果が出た。白土（2019）は、小学校教員養成課程2年生を対象に英語の授業で「協働学習を取り入れたゴール達成を目指すプロジェクト重視の授業実践」（白土 2019, p.255）を行う前と後とで動機づけに関する質問紙調査を行っているが、その結果において、関係性欲求がプロジェクトの前から高かったことを述べている（同前書, pp.256-266）。これは、すでに「学生たちの間にあ

る程度の信頼関係が築かれていた」こと、協働学習によって「関係性の欲求が満たされていった」（同前書, p.266）ことが影響していると論じられている。本研究においても、2年生を対象としており、1年次より編成されたクラスで授業を行っているため、すでにクラスのメンバー内で信頼関係が形成されていたといえる。しかし、協働学習という側面では、ピアノを弾くことの特徴から考えにくい点がある。本研究の対象校におけるピアノ学習では、人前で一人で演奏することが求められている。そのため、最終的には、ピアノの技能を身に付ける過程における学生間の支援よりも個人での練習が必要不可欠であることを認識しているのではないかと考えられる。そのため、自律性支援ではなく、関係性欲求を認識しているという結果になったとも考えられる。また、自分以外の学生を聴衆として捉えていることから、関係性が満たされれば過度な緊張を強いられる環境のなかで演奏することを避けられることを認識しているとも推察できる。

今後の課題として、学生が学生間の関係性を重要視していることを活かすような協働的な学習がピアノ学習において有用であるのか、また、それによって学生が学生間の自律性支援を認識するようになるのかを検討する必要があると考える。

本稿では、動機づけの調査を通して学生間の関係性  
欲求と自律性支援について考察するにとどまった。ピ  
アノ学習の技術的な現状と課題については、改めて論  
じることとしたい。

## 注

- 1 萩原（2019, pp.3-4）は、「歌わずだったら普通に弾けるのに、歌を付けると難しくなる」ことや、「ピアノだけでも必死なのにピアノに合わせて歌うことが難しかった」といった学生の振り返りをあげたうえで、「ピアノ経験の浅い学生にとって、両手で弾くことさえもままならない状況で、弾きながら歌うといった同時並行作業を行うことは非常に困難」と指摘している。

## 引用・参考文献

- 白土 厚子（2019）「小学校教員を目指す学生へのプロジェクト重視の英語の授業実践—自己決定理論の視点から」『津田塾大学紀要』第51号, pp.251-272。
- 萩原 理恵（2019）「保育者養成におけるピアノ弾き歌いに関する一考察—学生が直面した難しさと授業後の学習に対する意識に着目して—」『幼年教育 WEB ジャーナル』第2号, pp.1-9。
- 藤田 勉（2010a）「体育授業における動機づけ因果連鎖の検討」『鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編』第61巻, pp.47-73。
- 藤田 勉, 佐藤 善人, 森口 哲史（2010b）「自己決定理論に基づく運動に対する動機づけの検討」『鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第61巻, pp.61-71。
- 藤原 一子（2018）「保育士養成・教員養成課程に在籍する学生がピアノ学習において難しいと感じている項目の分析（1）—ピアノ演奏技術【音高】に着目して—」『東海学園大学教育研究紀要』第2巻, pp.39-49。
- 別府 祐子（2016）「ピアノ学習における動機づけと感情との関連—保育者養成校の学生のピアノ学習に着目して—」中国四国教育学会『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第62巻, pp.292-297。
- 別府 祐子・大野内 愛（2018）「保育者。教員養成課程におけるピアノ学習の動機受けに関する研究（2）—縦断的調査からの検討—」中国四国教育学会『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第64巻, pp.659-664。
- 吉村 淳子・芝崎 美和（2015）「保育者養成におけるピアノ指導について—学生の自己効力感に着目して—」『新見公立大学紀要』第36巻, pp.59-66。
- 吉村 淳子・芝崎 美和（2016）「自己効力感を高めるピアノ指導の検討—目標シート活用の試み—」『新見公立大学紀要』第37巻, pp.71-76。

